

## 継続的な公開研究会『河川塾』の実施

### 1. はじめに

2000年(平成12年)9月に八幡市で開催した「川に学ぶシンポジウム in 近畿」の終了後、実行委員が川に関する人のネットワークの継続や知識の習得を兼ねて、摂南大学澤井教授を中心にスタートし、2002年(平成14年)年8月よりNPO法人近畿水の塾事業の一つとして継続している。

### 2. 実施内容

河川を楽しく、幅広く、実験・具体例(フィールドとしてビオトープづくりや河川蛇行実験など)を併せてわかりやすく学ぶこと、様々なセクターからの受講生が時の話題・情報を提供する。

第1回は2000年11月に始まり、2011年3月の定例会で112回を迎えた。受講生は、学生・行政担当者・コンサルタント・市民など会員及びその紹介を受けたもので、2000、2001年は河川の基礎工学シリーズ、特別フィールドシリーズ(ワーキング)、2002年はマイリバーシリーズ、2003年は河川関連法(自然再生から淀川を例とした河川整備計画)、2004年は淀川の整備計画と水資源、付替え300年を経た大和川など、2005年は琵琶湖・淀川、都市と農、市民参加型公共事業など、2006、2007年はマイジョブ&リバーとして会員の仕事と川への関りなど、2008年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズ、古老に聞くシリーズ。2009年はマイジョブ&リバー、番外編を中心に10年を経て第100回記念企画、2010年はマイジョブ&リバー、流域委員会シリーズなどを中心に展開した。

回	月/日	内 容
107	10/28	大阪ふれあいの水辺づくり事業から学ぶこと～生物多様性の個人的な想いを踏まえて～(足立崇博)
108	11/26	大和川市民ネットワークの経緯と最近の状況(大和川市民ネットワーク代表 辰谷直子、副代表 新元秀、事務局長 小松清生ほか)
109	12/22	学生生活から、獣医師の職場や仕事内容など(尼崎市動物愛護センター 山崎綱士)
110	2011/1/26	梅小路公園水族館計画の問題点と経緯について(下村泰史)
111	2/22	尼崎南部再生へ向けた取り組み(尼崎南部再生研究室)
112	3/23	マイリバーを語る。川との付き合い。水との付き合い(福廣勝介)

### 3. 成果

近畿における川や水辺に関する知識を得、時の情報を共有でき、また各地での活動を知り、様々な団体との交流が図れた。

### 4. 今後の課題

- ・事前に講座・フィールドの希望内容を会員より収集
  - ・会員・受講生より得た情報などから、不定期に新たな知見を得られるシリーズ(フィールド・講座)の設置
  - ・二級河川の流域連携
- など、新年度に向けた内容等を検討する必要がある。

### 5. その他

今後の具体の予定として、

- ・マイリバーを継続して、情報を蓄積し交流をはかり、またこれらを紹介しながら川の評価基準により表彰する
- ・河川踏査、写真・資料収集等
- ・干潟事例報告、提案
- ・環境学習の検討報告
- ・河川で合宿 フィールドワークなどを検討中である。

(報告 西河 嗣郎)

回	月/日	内 容
102	2010/4/28	植物と水環境、揖保川水系、趣味の話など(名部勇世)
103	6/23	武庫川づくりと市民の関わり～武庫川流域委員会活動を通じて～(武庫川づくりと流域連携を進める会代表 田村博美)
104	7/27	神戸市職員による住民活動例～住民参加から行政参加(高畑正)
105	8/27	瀬戸内海の祝島から改めて原発と最後に残された瀬戸内海の内原風景を考える(川崎良重)
106	9/28	尼崎21世紀の森づくりと「すき間緑化」～尼崎鉄工団地 みどりへの挑戦～(NPO法人尼崎21世紀の森理事 村上義徳)

## 近畿水環境交流会 in 高島の開催

日時:平成 22 年 7 月 31 日(土)~ 8 月 1 日(日)

場所:滋賀県

1 日目 高島市内、憩いの里湖西

2 日目 針江浜

内容

(1 日目)

9:30 - 10:00 受付

10:00 - 12:00 オプショナルツアー

高島市内・畑の棚田、市内水路、歴史的資源などの見学(案内:高島市観光ボランティア協会の方々)

12:00 - 13:30 移動・昼食休憩

14:00 - 17:00 シンポジウム

18:00 - 懇親会

講演「望ましい流域連携のあり方について」

講師 滋賀県知事 嘉田由紀子

活動紹介

コーディネーター 近畿水の塾・まちの会 久保田洋一

針江生水の郷委員会、レイクポイントカヌークラブ、桂川流域ネットワーク、大和川市民ネットワーク、摂南大学澤井ゼミ・淀川愛好会、摂南大学石田ゼミ・エコシビル部

嘉田知事講演

滋賀県へようこそ。99 年第 1 回ということで、うれしく思います。大学生の方もおられるので、体験してください。ここには水に関わることがすべてあります。丸ごとの琵琶湖を楽しんでください。

流域治水の背景と流域連携など、イタセンバラを取り戻すなどは合意できますが、治水は対立しがち。これこそが連携に大事だと感じています。まずは命と暮らしのための治水政策が必要です。

最近水と人との関わりが無くなってきました。昔はたんぼに魚があがってきたなど、失われてきたことを聞いてまわりました。

むかしは近いみずが生きていたのです。多様な生物があり、生活に水が生きていました。水は子ども達の遊び場であり、小さなコミュニティの自主的な治水対策がありました。

水害に対しても集落の自治組織で水防組織をつくっていました。琵琶湖から水を取り、琵琶湖へ戻す暮らしがありました。これからは流域連携を考えることが必要です。

流域委員会で提案したこと

川と水のかかわりの再生、地域から学ぶ普通の暮

らしから学ぶ、住民と市民の違い、専門家的業界用語の払拭、暮らし言葉の提案などです。

公私二元論に公共私三元論、河川レンジャー制度の提案(対話のつなぎ) 水と人の 3 種の距離(物理的、社会的、心理的)などもしました。

氾濫原は日本のほとんどの場所がそうです。現実的な治水対策を進める必要があります(久保田メモ:あふれさせる治水)。

滋賀県では、以下の課題があります。

河川法整備の限界:経費も 300 億から 50 億に減ります

危機管理の限界:職員も体験不足。昭和 49 年以降の職員ばかりで水害を経験していません。

コミュニティの脆弱化

水害意識の低下 などです。

昭和 28 年 9 月 25 日安曇川の決壊で 13 名亡くなりました。当時の人に話を聞くと、

堤防に穴があった

砂利取りができず、河床が高かった。

戦争で金属供出のため半鐘がなかったなどの状況がありました。

滋賀県は、全体でバランスのとれた治水をめざしています。ダムで特定の治水をするのではないです。506 の河川のうち緊急を 30 指定しました。今後は施設の安全度でなく、地先の安全度で考えていきます。

うおじまプロジェクトとして、たんぼに魚を戻したいと考え、たんぼと湖をつなぐ取り組みも始めました。

しかし洪水リスクと魚の命は、トレードオフです。こちらを立てればこちらが立たずになります。両方大切です。みなさんの応援が必要です。

実は、ニゴロブナのフナ寿司をしっかり食べたいという個人的理由もあります。ホンモロコの炭火焼きも食べたいですし、セタシジミ、カイツブリ、も大切にしていきたいです。

内容(2 日目)

望ましい水辺利用の実践(琵琶湖畔、針江浜)

(以下のような進捗で進みました。)

8:30 - 9:00 受付

(木津川左岸、泉大橋直下流河川敷)

9:00 - 9:30 湖畔清掃

9:30 - 10:00 開会式、水辺利用マナー講習

10:00 - 12:00 水面利用の実践

12:00 - 13:00 昼食休憩

13:00 - 15:00 Eポートルース  
 15:00 - 15:30 閉会式、後片付け  
 (報告 久保田 洋一)



高島市内水辺の様子。網の目のように水路が張り巡らされています。



棚田地帯です。環境に配慮した農業を志向する農家も多いようです。



嘉田知事の講演や、水辺に関する様々な活動紹介がありました。



嘉田知事の講演です。滋賀県の地先の安全度向上という話が印象的でした。



2日目のEポートルースです。例年通りの盛り上がりを見せました。



## ～猪名川・藻川の清流復元～水辺まつり Eボート体験（報告）

### 1. 趣旨

日常生活の中において水辺に親しむ機会が少なくなった大人や子供たちが少しでも水辺に親しんでもらい、水辺の生物や水辺から見た街の風景など新たな発見を体験してもらう。また、ボートに乗り、力を合わせて漕ぐことから生まれる連帯感や協調性を実感してもらう。

### 2. 内容

(1) 日時 2010年9月19日（日）午前10時～午後3時00分

(2) 場所 藻川左岸河川敷（中園橋東詰河川敷／尼崎市田能）

(3) Eボートの数 1艘

(4) コース

会場付近から乗船し、水管橋で折り返し帰る。1艘につきスタッフを2名配置し、1回の乗船で参加者8名が乗船。所要時間は15分程度。

### 3. スタッフ

- ・ 近畿水の塾 安田、白樫
- ・ 摂南大学理工学部澤井ゼミ・エコシビル部 小笠原 他7人

### 4. 参加者 乗船体験者数 12回運行 約96人

### 5. 感想

7回目になりますが、今年も来場者が3,000人を超える大盛況でした。これほど多くの人に、川を身近に感じてもらえたことは、たいへん意味があると思います。

Eボートは、来場者に人気が高く、乗船券も午前中で売切れてしまいました。澤井ゼミ・エコシビル部のみなさんが8人も来てくれ、共に楽しむことができました。ただ、「猪名川・藻川の清流復元に向けて、川と人との関わりを考え人々が川辺で交流する日」というイベントの趣旨を学生さんに十分伝えられなかったのが反省点です。今年度も参加を予定しています。



（白樫）

## ホームページの作成・更新等についての事業報告

### 1. はじめに

当会では平成14年9月15日にホームページを立ち上げ、会の概要、入会方法、事業内容、活動報告などを公開している。

また、会員はメーリングリストに登録し、会員間の情報交換を常に行っている。

### 2. 実施内容

ホームページの内容は以下のとおり

#### (1) 当会の概要等

- ・ 入会方法
- ・ 設立の経緯、総会資料
- ・ 会員紹介のコーナー など

#### (2) イベント情報

- ・ 当会主催のイベント案内
- ・ 河川塾案内
- ・ 他団体のイベント案内

#### (3) 活動報告

- ・ 当会の活動報告
- ・ 河川塾通信
- ・ 新聞記事掲載

#### (4) リンク集

- ・ 水環境等の市民団体等のリンク集



<http://www.geocities.jp/npokinkimizunojuku/>  
ブックマークをお願いします。

(報告者：安田 博之)

### 3. 成果

平成22年4月から23年3月までの1年間で13回の更新(通算で159回)を行い、常に最新情報を発信した。過去の報告も掲載しているので、会員の資料室としての利用もされている。

総会資料についても掲載している。

### 4. 今後の課題

- ・ イベントの案内だけでなく、川に関わる活動をしている団体や個人の紹介をするなど内容充実を目指す。
- ・ 他のホームページにリンクしてもらい広く閲覧してもらうように工夫する。当会のリンク集も充実させる。